

家庭菜園

Q & A

問題解決!



南部宮農センター
園芸課
検校 哲也

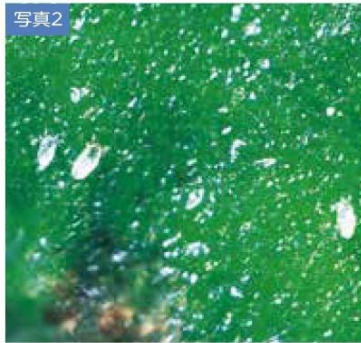
Q1 ダニは、見えないくらい小さい虫と聞きますが、どんな被害が出ますか？

A1 ダニと言うと、アレルギイの原因となる虫を思い浮かべるかもしれません。家にいるダニは、植物に寄生することはなく、畳やカーペットにおいて、髪の毛やフケ、食べかすなどをエサにしています。

ダニは国内で確認されているだけでも、2千種以上いると言われ、そのほとんどが植物に寄生しています。

葉に寄生するハダニ、新芽につくホコリダニが野菜に付く代表的なダニです。ハダニは体長0.5mm前後、ホコリダニは0.2mmほどしかなく虫メガネが必要です。(写真1、2) これらのダニは、ナス、トマト、キュウリ、スイカ、インゲンなど、夏野菜のほとんどに発生します。

ハダニの被害は、最初、針で突ついたり点々に色抜



ホコリダニ(体長約0.2mm)



ナミハダニ(雌成虫、体長約0.6mm)

けし、症状が進むと点々がくつついて、まだら模様になります(写真3)。
冬越したハダニは、4月〜11月の間、葉裏に産卵し、1日に数個から10個、一世代で100個ほどの卵を産みます。

孵化した幼虫は3回脱皮して成虫となります。成長速度は温度に左右され、25℃では10日前後で卵から成虫になります。



ナスの被害(葉)

ホコリダニは、新芽、新葉や蕾など、やわらかい部分を吸汁します。なんとなく新芽の伸びが悪くなってきたら注意です。

被害が進むと、新葉が奇形になったり、新しい葉の展開が止まったりします(写真4)。ナスでは果実のヘタが褐変します。

夏に多発し、葉裏に卵を産み、幼虫は1週間前後で成虫になって産卵を始めます。繁殖力が高く、小さな新葉に数百匹のダニが寄生します。いずれのダニも周辺の雑草

が越冬場所になるなど発生源となります。畑の周りの除草に努めましょう。また、高温と乾燥を好みますので、晴れの日が続くときなどはこまめに水やりします。発生初期なら、葉裏に水をかけてダニを落とします。
アオムシなどと違って、取り除けませんので、最終的には薬剤に頼らざるをえません。各種のダニ剤が市販されています。注意するのは、同じ農薬を連続して使用しないことです。



ナスの被害(新芽の萎縮)

例えば、コロマイト乳剤は6、カネマイトフロアブルは20B、スターマイトフロアブルは25Aです。そして、アグリメックも6でコロマイトと同じ番号で効き方が同じなので、同じ農薬を連用することになります。
なお、どんな虫もそうですが、天敵がいます。ハダニやホコリダニにはカブリダニという天敵がいます。
農薬を散布すると天敵まで殺してしまいます。ですが、天敵への影響のない農薬があります。選ぶときには天敵への影響のない薬剤を選ぶとよいでしょう。例えば、先ほどの薬剤では、カネマイトやスターマイトが影響ないとされています。

いずれにせよ、農薬の説明書をよく読んでお使いください。

**オンライン
農業塾は
こちら**

動画はコチラ

**管内の
病害虫
情報は
こちら**

**家庭菜園
情報は
こちら**